

令和6年 1月28日(日)

12:00 開演 (11:00 開場)

二十五世観世左近記念 観世能楽堂

前売券：発売中

料金：全席指定(税込)

S席 10,000円 A席 9,000円 B席 8,000円

C席 7,500円 学生席 2,500円 (25歳以下、要学生証提示)

- ・午前11時15分より、本舞台にて当日の演目の解説をいたします。お気軽にご参加ください。
・当日券をご用意できる場合は午前10時45分より発売いたします。

主催：公益財団法人十四世六平太記念財団

協力：一般社団法人喜多流職分会

助成：文化庁文化芸術振興費補助金 (舞台芸術等総合支援事業 (創造団体支援))
独立行政法人日本芸術文化振興会

喜多流 自主公演

令和六年 一月

鶴 鶴 老

松

紅梅殿

高林 中村 香川
呻二 邦生 靖嗣

令和6年度 喜多流自主公演について

喜多能楽堂改修工事の為、令和6年度自主公演(令和6年4月~令和7年3月)の会場は 観世能楽堂 となります。

- ◆ 指定席券前売開始 令和6年2月1日(木) 午前10時~
◆ 令和6年度は全7回公演です。
◆ 令和6年度 喜多流自主公演年間優待券(税込)
7枚綴 56,000円 / 5枚綴 40,000円
発売開始 令和6年1月17日(水) 午前10時~
◆ 会場 観世能楽堂 観世能楽堂ホームページ >>>



チケット予約購入のご案内

インターネット

喜多能楽堂ホームページ http://kita-noh.com/ (24時間対応、要登録・無料)

【お受取り・お支払い】

① セブンイレブン

ご予約の際画面に表示された番号をレジにご提示の上チケットをお受取りください。お支払いは現金またはクレジットカードをご利用いただけます。ご予約の際クレジットカードで先にお支払いを済ませていただくことも可能です。

電話予約

喜多能楽堂事務局 TEL. 03-3491-8813 (午前10:00~午後6:00 休館日あり)

【お受取り・お支払い】

① セブンイレブン

ご予約の際お伝えする番号をレジにご提示の上、チケットをお受取りください。お支払いは現金またはクレジットカードをご利用いただけます。

② 郵送

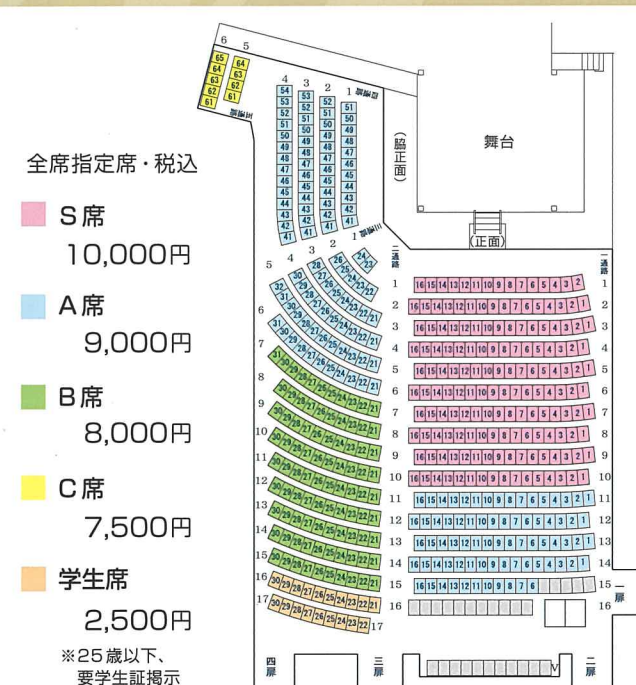
チケット代金と手数料を指定の銀行口座にお振込みください。入金確認後、簡易書留にてチケットをお届けいたします。

- ※ お受取り・お支払い方法によって別途手数料がかかります。ご予約の際ご案内いたします。
※ ご予約いただいたチケットのキャンセル、変更はできません。

ご注意

- ・ロビーが混雑することがありますので、できるだけ開場時間に合わせのご来場をお願いします。
・開演中の途中入場はお断りいたします。
・未就学児童のご入場はご遠慮ください。
・やむを得ない事情により出演者が変更になる場合がございます。
・許可なき写真・ビデオ撮影、及び録音はお断りいたします。
・客席での携帯電話やスマートフォンなど音や光の出る電子機器のご利用はお断りいたします。
・能楽堂内に食堂はございません。GINZA SIXまたは近隣の飲食店をご利用ください。
・観世能楽堂は全館禁煙です。屋外喫煙所をご利用ください。
・お席を離れる場合は貴重品、お手回りにご注意ください。盗難・紛失についての責任は負いかねます。
・係員の指示に従っていただけない際には退場していただく場合がございます。

自主公演観客席御案内



会場案内

二十五世観世左近記念 観世能楽堂

〒104-0061 東京都中央区銀座6-10-1 GINZA SIX 地下3階
会場に関するお問い合わせ TEL. 03-6274-6579 (観世能楽堂)
観世能楽堂ホームページ https://kanze.net/

公演に関するお問い合わせ TEL. 03-3491-8813 (喜多能楽堂事務局)
喜多能楽堂ホームページ http://kita-noh.com/



- ・銀座駅 東京メトロ銀座線・日比谷線・丸の内線 A2出口、A3出口より徒歩2分
※ 銀座駅とGINZA SIX地下2階をつなぐ連絡通路がございます
・東銀座駅 東京メトロ日比谷線・都営浅草線 A1出口より徒歩3分
・有楽町駅 JR山手線・京浜東北線・東京メトロ有楽町線 銀座出口より徒歩10分
・車で越しのお客様 GINZA SIX内に併設の駐車場がございます。詳しくはGINZA SIXホームページにてご確認ください。
・能楽堂へは、三原通り側・トラベルローソン横のエスカレーター・エレベーターをご利用いただくと便利です。中央通り側入口からは、能楽堂までの直行エレベーター・エスカレーターはございません。
・土曜日・日曜日・祝日の中央通りは、歩行者天国となり、平日と異なりますのでお車で来場の際はご注意ください。

能

後シテ連・紅梅殿 友枝雄人
前シテ連・男 友枝真也
後シテ・老松神 香川靖嗣
前シテ・老翁

老松

ワキ・梅津某 宝生欣哉
ワキ連・従者 大日方 寛
ワキ連・従者 宝生尚哉

大鼓 大倉慶乃助 太鼓 小寺真佐人
小鼓 田邊恭資 笛 松田弘之

アイ・安楽寺門前の者 野村万之丞

後見 内田安信
佐藤寛泰

地謡 高林昌司 佐々木多門
佐藤 陽 狩野了一
塩津圭介 長島 茂
谷 友矩 内田成信

休憩(二十分)

狂言

成上り

シテ・太郎冠者 野村万蔵

アド・主 石井康太
小アド・すっぱ 野村拳之介

能

シテ連・男 大島輝久
シテ・若女(鶴の精) 中村邦生

鶴

大鼓 佃 良勝 太鼓 大川典良
小鼓 森澤勇司 笛 藤田貴寛

後見 友枝昭世
金子敬一郎

地謡 狩野祐一 佐々木多門
佐藤 陽 長島 茂
塩津圭介 出雲康雅
谷 友矩 内田成信

休憩(十分)

能

後シテ・鶴の霊 高林呻二
前シテ・舟人

ワキ・旅僧 御厨誠吾

大鼓 佃 良太郎 太鼓 桜井 均
小鼓 曾和伊喜夫 笛 杉 信太郎

アイ・蘆屋の里人 河野佑紀

後見 塩津哲生
谷 大作

地謡 高林昌司 粟谷浩之
佐藤寛泰 金子敬一郎
友枝真也 大村 定
狩野祐一 友枝雄人

附祝言

終了予定時刻 十六時五十分頃

老松 紅梅殿(おいまつこうばいどの)

梅津某は北野天満宮をよく信仰していたが、ある日霊夢の告げを受け、都から、菅原道真を埋葬したとされる筑紫の安楽寺へと旅をしてくる。老翁と男に出会ったので「飛梅」のことを尋ねるが、道真公の後を追う都の邸宅から飛んできた梅であるから我々はこの梅を「紅梅殿」と呼び出して神木として崇めているのだ、と咎められる。同じく注連縄を廻し大切にされている松は「老松」であると紹介し、社の由来、梅や松に関する故事を物語り、消えてゆく。(中人)

夜半、松陰に居る梅津某のもとに、老松の精と紅梅殿の精が現れる。旅人を慰めようと、神楽を奏し舞歌を手向け、この御世を寿いで消えてゆく。(約一〇〇分)

成上り(なりあがり)

太郎冠者は、初寅で鞍馬参りをする主の太刀を持って供をするが、籠り眠っている間にすっぱが近づき、太刀を青竹にすり替えてしまう。翌朝、太刀が無いことに気づいた太郎冠者は、主に、様々な物が成り上がる話をし、また熊野の別当の蛇太刀(くちなわだち)(別当が忘れ置いた太刀が余所者の目には蛇に見えて太刀だと気づかれずに済んだという)の話を引きついで、かそうとするが、結局叱られてしまう。二人は太刀を盗んだすっぱを捕えようと待ち伏せていると、そこに昨夜のすっぱが現れる。(約二十分)

鶴(つる)

都からの旅人が、紀州和歌浦にやって来る。歌枕として知られるこの名勝地で山部赤人の古歌を口ずさんでいると、その和歌にひかれるように、女が現れる。旅人に請われ、女は、この地に聖武天皇が行幸なさったときに随行していた山部赤人が勅説により和歌を読んだ時のことを物語る。勅説を受け窮していた赤人の目前で、潮が満ちて来たので鶴の群れが岸辺を離れて葦辺へと飛び来た様子を見て、和歌を思いつき、その和歌によりさらに名を上げたのだという。「和歌の浦に潮満ち来ればかたをなみ葦辺をさして鶴鳴きわたる」

やがて女は鶴の精であった本性を現し、翼を翻して舞を舞い、雲間に紛れ遠く遙かに消えて行った。(約四十五分)

鶴(ぬえ)

諸国一見の旅僧が摂津国の蘆屋を訪れる。里人に紹介され、川沿いの御堂に宿を取る。その夜、異様な姿の舟人が空舟(うつおぶね)に乗り現れる。僧が不思議に思い名を尋ねると、かつて源頼政に退治された鶴の亡霊だと明かし、その時の有様を物語り舟に乗り消えてゆく。(中人)

読経し鶴の供養をする旅僧のもとに鶴の亡霊が現れる。供養に感謝し、頼政に退治されたことや、頼政がその恩賞として「獅子王」という剣を賜り名声を得たこと、そして自分は空舟に押し込まれて淀川に流されたことなどを語り、水面に浮かぶ月と共に、その姿は消えていく。(約八十五分)

令和六年 一月 自主公演番組予告

令和六年 二月二十五日(日) 正午始

●会場 観世能楽堂

●指定席券販売中

芦刈 粟谷 浩之
羽衣 金子敬一郎
春日龍神 大島 輝久